

平成28年度探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業（学校図書館活用型） 実施報告書

研究のキーワード
鏡野中学校授業スタンダード、言語活動、学校図書館活用の研究、総合的な学習の時間、小中連携
研究成果のポイント
○ 教員の授業改善の意識が高まり、探究的な学習のスタイルが全校的に定着してきた。課題提示やめあての確認など、多様な生徒の学習意欲を高めるような工夫が行われ、生徒の学力向上に寄与した。 ○ 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の4つのサイクルを回すことができた。総合的な学習の時間では、生徒は自分たちで考えて行動しようとするようになった。 ○ 山田小学校と研究主題を統一し、連携して研究推進を行うことができた。

1 主な取組

平成28年度	(1) 各教科における探究的な授業づくりや学校図書館や新聞の活用を意図した年間指導計画の研究と実践 (2) 各教科における探究的な授業づくりの理論学習及び指導方法の研究 (3) 先進校視察 (4) 研究発表会の実施（学校図書館大会）各教科及び総合的な学習の時間 (5) 総合的な学習の時間の理論学習及び指導方法の研究、年間指導計画の見直し (6) 各教科と総合的な学習の時間の関連を図った指導計画の作成及び実践 (7) 小学校との連携 (8) キャリア教育の視点から小中9年間を見通した「つきたい力」の系統表の作成
--------	--

2 具体的な研究活動（研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等）

(1) 各教科等における探究的な授業づくりの研究（主な取組（1）～（4）に対応）

下記3項目を重点内容とした。

- ①「鏡野中学校授業スタンダード」に基づいた授業構想
- ②言語活動を効果的に位置付けた授業研究と実践
- ③学校全体における効果的な学校図書館活用の研究

（研究組織の構成）

- ・研究推進委員会を校時表の中で月曜日の6時間目に定め、研究計画や研究の進捗状況を捉え、状況に応じて方策を検討し、研究推進の手立て等を行った。研究組織として4部会を設立し、各部会の長を研究推進委員会の構成委員に加えた。学期毎に部会で実践の成果と課題を協議し、協議内容を研修職員会で報告し、成果や課題を全体で共有するようにした。

(共通確認、理論研修、指導方法に関する研修、研究発表会の実施)

- ・年度当初の職員会にて、具体的な年間計画を含んだ探究的な授業づくりに関する研究計画を提案した。
- ・年度当初の教科部会、4部会にて、探究的な授業づくりや学校図書館や新聞の活用を意図した年間指導計画の検討を行った。
- ・年度当初に校内研修職員会にて、香美市教育委員会田村指導主事より事業説明、山本図書支援員による「授業における新聞や図書館の活用の仕方」の講演、押川・橋詰教諭による思考ツールに関するワークショップを開催し、職員全体での共通確認を行った。
- ・探究的な授業づくりの理論学習及び指導方法の研究について、4月8日に文部科学省初等中等科視学官田村学氏を講師として招聘し、「総合的な学習の時間を柱に据えた探究的な授業づくり」について理論学習を行った。田村視学官には、1月17日の第3回公開授業研修においても、次期学習指導要領の内容を踏まえ、今後の研究推進の意欲を高めるような講演を頂いた。
- ・鎌倉女子大学講師吉田豊香氏を講師として、6月22日第1回公開授業研修と11月14日校内研修において、総合的な学習の時間と探究的な授業づくりについて本校の現状に即した助言を交えて講演を頂いた。
- ・吉田氏においては、山田小学校と本校の両方の研究に携わって頂き、結果的に研究の連携の橋渡し役も担って頂いた8月5日の小中合同校内研修では、鏡野中と鏡野中校区の5つの小学校の教員を対象に9年間を見通した身に付けたい力について演習を交えた講演を頂いた。
- ・8月15日の夏期校内研修において、学習指導要領の趣旨を踏まえた言語活動の充実「これからの時代が求める授業づくり」に関するオンデマンド研修を行った。
- ・学期に1回の割合で、公開授業研究を計画し、1学期は1年総合的な学習の時間、2学期は2,3年の教科、3学期は1,2年の総合的な学習の時間という具合に、探究的な授業づくりの研究が普及、拡大するように計画した。指導案の検討、本時の授業に至るまでの単元の指導など、東部教育事務所の指導主事の先生方や小中学校課の先生にも指導を頂きながら、学年会や教科部会で組織として言語活動を効果的に位置付けた授業づくりの研究に取り組むことができた。教科部会でチームとして授業研に取り組むという姿勢、それを支える学校組織が効果的に機能した。

(図書館活用)

- ・探究的な学習に適した使いやすい学校図書館にするために、SLA楽学会の助言を得て学校図書館を改修した。図書館整備にあわせて学校内の掲示板も一掃し、生徒が見たくなるような掲示板を目指して掲示した。
- ・年度当初の校内研修職員会にて、「授業における図書や新聞の活用の仕方」の説明会を開催し、すべての教科部会に図書支援員が参加して、探究的な授業づくりにおける図書館活用方法について協議の場をもった。各教科部会で年間図書館活用計画も見直しを行い、図書館資料や新聞を活用した授業の実践を行った。

(先進校視察)

- ・先進校視察は、平成 28 年 11 月 19 日(土)に広島大学附属東雲小中学校へ鏡野中全教員を対象とした全校視察として行った。視察後の感想では、「鏡野中の現在の研究の方向性は、間違いがないと確信を得た。」「生徒の意見を授業に生かすこと。教員の力量は、生徒に主体性をもたせた授業を、ねらいに沿って進行させるファシリテーターとしての役割できる。」などが寄せられ、教員の意欲の喚起に効果的な視察ができた。
- ・11 月 12 日(土)には、4 名の教員が代表で横浜市立大岡小学校の総合的な学習の時間の発表会にも参加し、県内の「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)」の指定を受ける他校の公開授業研究にも教員が参加し、校内で伝達研修を行った。

(2) 各教科と総合的な学習の時間との相互作用が生まれる教育課程の研究

下記 2 項目を重点内容とした。

(主な取組(5),(6)に対応)

①総合的な学習の時間の計画の見直し

②総合的な学習の時間の授業研究と実践

- ・総合的な学習の時間の年間計画の見直しについては、東部教育事務所の指導主事を迎え、各学年の総合担当教員からなるカリキュラム検討会を学期に 1 回の割合で開催した。生徒の実態を見据え、体験活動や地域とのつながりや関わりを深めることができる教材開発と並行して、逐次暫定的な計画を更新していく形態で見直しを行っていった。
- ・中学校の「総合的な学習の時間」における時間的制約や、多数よりも少数の方が活動計画を柔軟に実施することができるという利点から、1 年生の総合的な学習の時間では、共通テーマ「香美市の良さを PR する」のもとに、各学級が独自のテーマを立て、地域理解やまちおこしを教材として「学級総合」の形態で進め、2 月に発表会を開いた。2 年生では、香美市の産業をそれに従事する職業人の視点で調査し、地域経済を通して地域振興を考える取組をし、3 年生では、職場体験学習を実施した。

(3) 小学校との連携(主な取組(7),(8)に対応)

- ・山田小学校、香美市教育委員会、東部教育事務所の先生方も交えて月 1 回の割合で円滑に小中連携を進めていくために、連絡会が開催された。年度当初には、小学校と中学校の研究主題の統一、検証方法の確認、相互の年間研究活動の調整を行った。小中合同研修会や、小中における総合に関する評価規準の統一、カリキュラム作成についてなど、小中の教育に共通して関わる吉田豊香氏の助言を頂きながら、協議を重ねた。
- ・香美市のキャリア教育における 15 年間を見通した「めざす子どもの姿」を基調に、9 年間を通して総合的な学習の時間でつきたい力について小中合同で検討し、評価規準とリンクさせた系統表を作成した。

3 研究の成果と課題

(1) 検証

指標（検証）の内容	達成目標	検証結果
○各教科等における探究的な授業づくりの研究 「4. 研究内容・方法」 (1) ①「鏡野中学校授業スタンダード」に基づいた授業構想 ②言語活動を効果的に位置付けた授業研究と実践 ③各教科における指導計画と評価規準の見直し	〈生徒の学力状況〉 H29 年 1 月高知県学力定着状況調査において、教科平均正答率県平均以上	H29 年 1 月高知県学力定着状況調査において、平均正答率を県の平均と比較すると、1 年では 5 教科とも県平均以上となり、2 年では 5 教科中、県平均以上が 2 教科、県平均以下が 3 教科であった。
	〈生徒の意識〉 授業アンケート（生徒用）の項目 2～6 において、年度当初調査から年度末にかけて、平均して 0.5 ポイントアップ。	授業アンケート（生徒用）の項目 2～6 において、年度当初調査から年度末にかけて、平均して 3.2 から 3.3 へ 0.1 ポイントアップ。
「4. 研究内容・方法」 (1) ④学校全体における効果的な学校図書館活用 の研究	〈図書館活用〉 学習部学校図書館や新聞を活用した授業実践の増加	学習部会が実施した調査で、学習部学校図書館や新聞を活用した授業を実践した教員が 1 学期末では 47%であったが、年度末では 79%になった。
○総合的な学習の時間の研究推進の検証 「4. 研究内容・方法」 (2) ①総合的な学習の時間の計画の見直し ②総合的な学習の時間の授業研究と実践	〈生徒の意識〉 総合的な学習の時間で育った学力についての調査（中学生用）の項目 13 において、年度当初調査から年度末にかけて、平均して 0.5 ポイントアップ。	総合的な学習の時間で育った学力についての調査（中学生用）の項目 13 において、年度当初調査から年度末にかけて、平均して 2.8 から 3.0 へ 0.2 ポイントアップした。
○地域の素材や人材を生かした体験的な学習開発 「4. 研究内容・方法」 (2) ③	体験活動や地域とつながり、関わりを深めることができる教材を 4 本以上開発し、研究集録「かがみの」へ掲載する。次年度の総合的な学習の時間の年間計画に生かす。	伝統工芸（土佐打ち刃物、フラフ）、防災（繁藤災害、ハザードマップ）、こども（保育園から高等学校までの教育）、福祉（高齢者問題）、香美市の産業（農業など産業における地域特性）の教材を開発した。
○キャリア教育の視点から小中 9 年間を見通した「つきたい力」の系統表の作成 「4. 研究内容・方法」 (3)	系統表の完成。	総合的な学習の時間の評価規準表に関して、小中の系統性が保たれるように見直しをし、その評価規準表に対して、香美市キャリア教育 15 年間を見通した「めざす子どもの姿」のつきたい力を対応させた。

(2) 成果

(各教科における探究的な授業づくり)

- ・指標となる上の5項目に関しては、どの教科が、どの学年が特に秀でていたということなく、どの教科でも、どの学年も、一様に平均を0.1ポイント上げていた。このことは、教員の授業改善の意識が高まり、授業スタンダードや探究的な学習のスタイルが全校的に定着しつつあることを表している。特に、授業の前半である、課題提示、めあての確認など、多様な生徒の学習意欲を高めるような工夫が行われている。また、多様な表現方法がある課題には積極的に取り組み、授業の振り返りを通して、自分の理解度を把握するようになった。

(総合的な学習の時間)

- ・総合的な学習の時間では、生徒は自分たちで考えて行動しようとするようになった。
- ・課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の4つのサイクルを回すことができた。
- ・普段の授業の時とは異なる生徒の姿を見ることができた。
- ・3年間を見通したカリキュラムの作成に取りかかれた。

(3) 課題

- ・グループワークや話し合い活動をより活性化するためには、まず、自由に意見交換ができる互いに認め合う学習集団づくりは不可欠である。次に、話し合いのルールや指導や、発表スキル、コミュニケーションスキルのアップを意図した取組をする必要がある。
- ・総合的な学習の時間では、生徒は自分たちで考えて行動しようとする場面も見られるようになったが、グループワークや話し合いの際に、自分の考えをもって参加できていない生徒もいる。対話や話し合いを通して自分の存在が認められることや、自分の意見が生かされる実感を積み重ねて主体的に学習に取り組む態度を育成する必要がある。
- ・教員の指導技術については、集団解決に取り組んでいる時のファシリテーターとしての教師の支援のあり方、グループワークからクラスワークへ移る際の意見のまとめ方、振り返りの工夫などに改善の余地がある。
- ・思考力、判断力、表現力その他の能力を用いて課題を解決する際には、活用される基礎的な知識及び技能が不可欠である。家庭学習習慣の定着、基礎学力を定着させる取組を継続し、「確かな学力」のバランスのとれた育成を目指さなくてはならない。
- ・探究的な授業づくりを実施するにあたって、各教科においても、総合的な学習の時間においても、教材研究や打合わせを行う会の時間の確保を適切に確保していなくてはならない。また、総合的な学習の時間においては、準備や渉外を担当する総合コーディネーターの確保が必要である。
- ・各教科等の学習内容と総合的な学習の時間との関係のみならず、教科間の相互の関係も捉えて教科で培った力を発揮できる総合のカリキュラムづくりを検討していかななくてはならない。また、生徒の実態や活用できる地域の教材等に基づき、学校教育目標を踏まえて、カリキュラムを編成し、実施し、評価して改善を図るサイクルも必要である。
- ・公開授業研修の開催や研究会での発表などを通して、校内外の教員へ向けては探究的な授業づくりに関する鏡野中の取組について情報発信してきたが、校区や地域、大人や子どもなど、情報を受け取る対象を広げて情報発信していきたい。

(4) 課題に対する次年度の重点的な取組（改善策等）

- ・教科担当や総合的な学習の時間の担当者に偏りがちだった研究活動を職員全員のものにするために、校内研究組織の改編を行う。
- ・授業協議や授業における図書館資料や思考ツールの活用例などを、職員全体で職場の財産として共有するために、散逸しがちな情報を集約し、発信する作業を行う。
- ・総合的な学習の時間のカリキュラムについて、生徒の実態、活用できる地域の教材等、教科との関連に基づき、学校教育目標を踏まえて、カリキュラムを編成し、実施し、評価して改善を図る。
- ・総合的な学習の時間だけでなく、教科の学習の時間でも、総合の手法を生かした授業展開を考慮し、研究主題を意識した授業を行う。引き続き、図書館活用・思考ツールの普及に努める。
- ・家庭学習用に毎日出題している鏡野プリントを用いて、家庭学習習慣の徹底、基礎学力の定着を図る。基礎的な知識及び技能のほかに、根拠や理由を明確に示しながら述べたり、結果を考察し説明したりすることなどについて対応する課題も随時入れていく。
- ・校外への探究的な授業づくりに関する情報発信の仕方を検討し実践していく。